

興南工場

前回のサロンに登場してきました日本窒素(朝鮮窒素)の興南(フンナム)工場について取り上げることといたします。

朝鮮窒素は 1927 年 5 月に設立された会社で、その中での中心となったのが興南工場でした。この工場が出来る以前の興南は 20～30 ほどの家が細々と生きている寒村でした。そこが 2 年 8 ヶ月後には敷地面積五百数十万坪、社宅・病院・警察・学校・郵便局・図書館・運動施設・スーパーマーケットを備え、完全電化・水洗トイレ・床暖房を備える従業員 4 万 5 千人、家族を含めると 18 万人の一大工業都市となったのです。

「洋風の広い社宅はスチーム暖房で冬でもホカホカ、お風呂は何時もお湯が張られていて炊飯器でご飯を炊く、内地よりもはるかにモダンな生活をしていました」と当時のことを語っています。また 15%の外地勤務手当がつくものですから興南勤務は喜ばれました。

これだけの工場ですから水電解設備は世界一位、硫酸の製造量は世界三位を誇りました。興南工場を支えた豊富な電力はダムによる水力発電です。北朝鮮の代表的河川である鴨緑江の支流を堰き止めた赴戦湖・長津湖の二大ダム湖から 1000mの落差を利用して豊富な電力が生まれました。

興南工場が危機にさらされたのは 1945 年 8 月 19 日。ソ連の軍隊がやってきたのです。従業員・家族は一刻も早く逃げ出さないといけません。この時に従業員が良心を見せます。総て破壊せよという軍の命令に対して「この工場は朝鮮の人たちに有益なものだから遺す」と言って破壊しなかったのです。

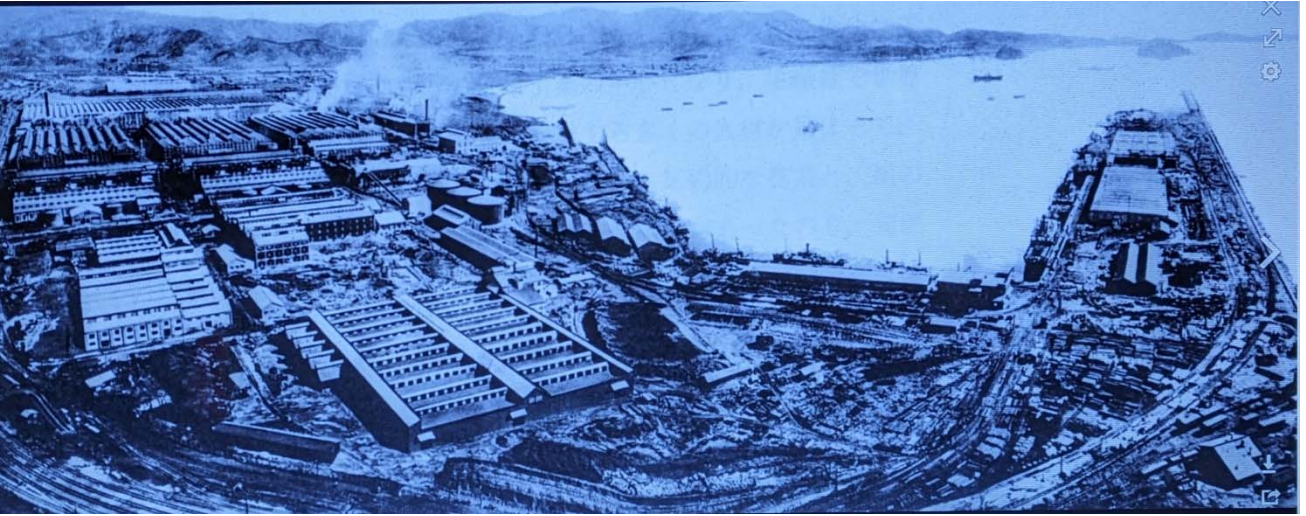
興南で原爆を開発していたということは朝鮮人労働者の話を基に北朝鮮や旧ソ連が主張していたことなので反日感情に基づく捏造だという説が強いのですが、アメリカもトニー・ドルバとドワライト・R・ライダーが「興南は日本の核開発における頭脳であった。ここならウランの精製も重水の製造も出来た」と結論付けています。

旧ソ連は 1949 年 8 月 29 日に最初の原爆実験を行い、開発の為の設備は興南工場から運んだもので技術はシベリア抑留された日本人技術者から伝授されたものであるとも言われています。湯川秀樹がノーベル賞に選ばれたのは同じ年の 11 月 3 日。表向きは二年前に湯川の理論が正しいと証明されたのが理由であるとされていますが、ソ連の原爆が引き金だとの説も有力です。また、これに驚いたアメリカが朝鮮戦争時に爆撃を行って巨大な核工場施設を破壊したとの記事がオーストラリアの新聞に掲載されています。さらに興南を占領した韓国軍がウランウム処理プラントを発見したとニューヨーク・タイムスが伝えています。これらをまとめたのが矢野義昭の「世界が隠蔽した日本の核実験成功」です。

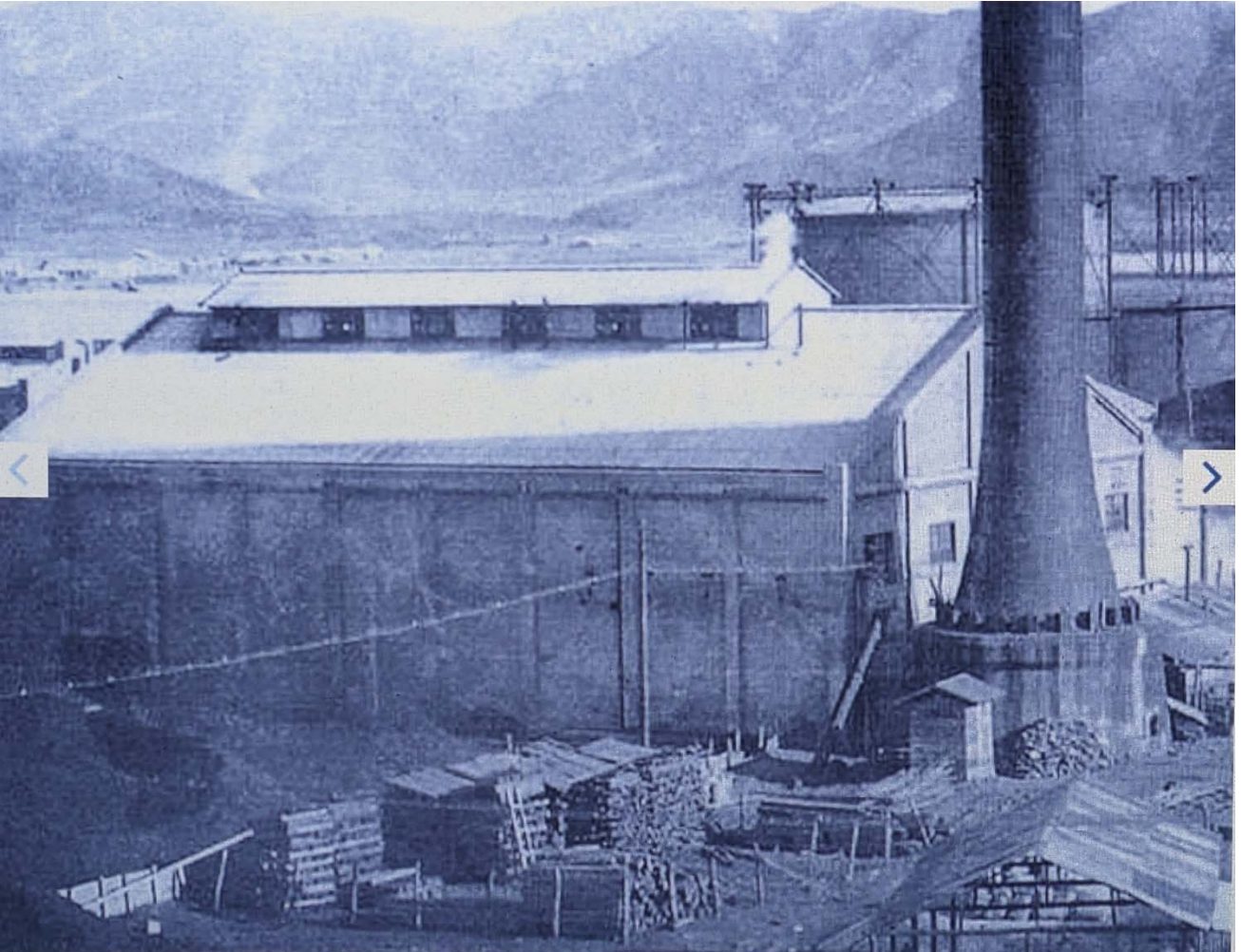
現在興南は工業都市となっており原爆製造も行っていると伝えられています。しかし北朝鮮領であるので立ち入り調査が、ほぼ不可能なので真偽を確かめる手段がないのが残念です。

かつて興南工場に勤務していた方のご家族や興南工場のこと・興南という町のことをご存じの方がいらしたらご一報お願いしたいものです。

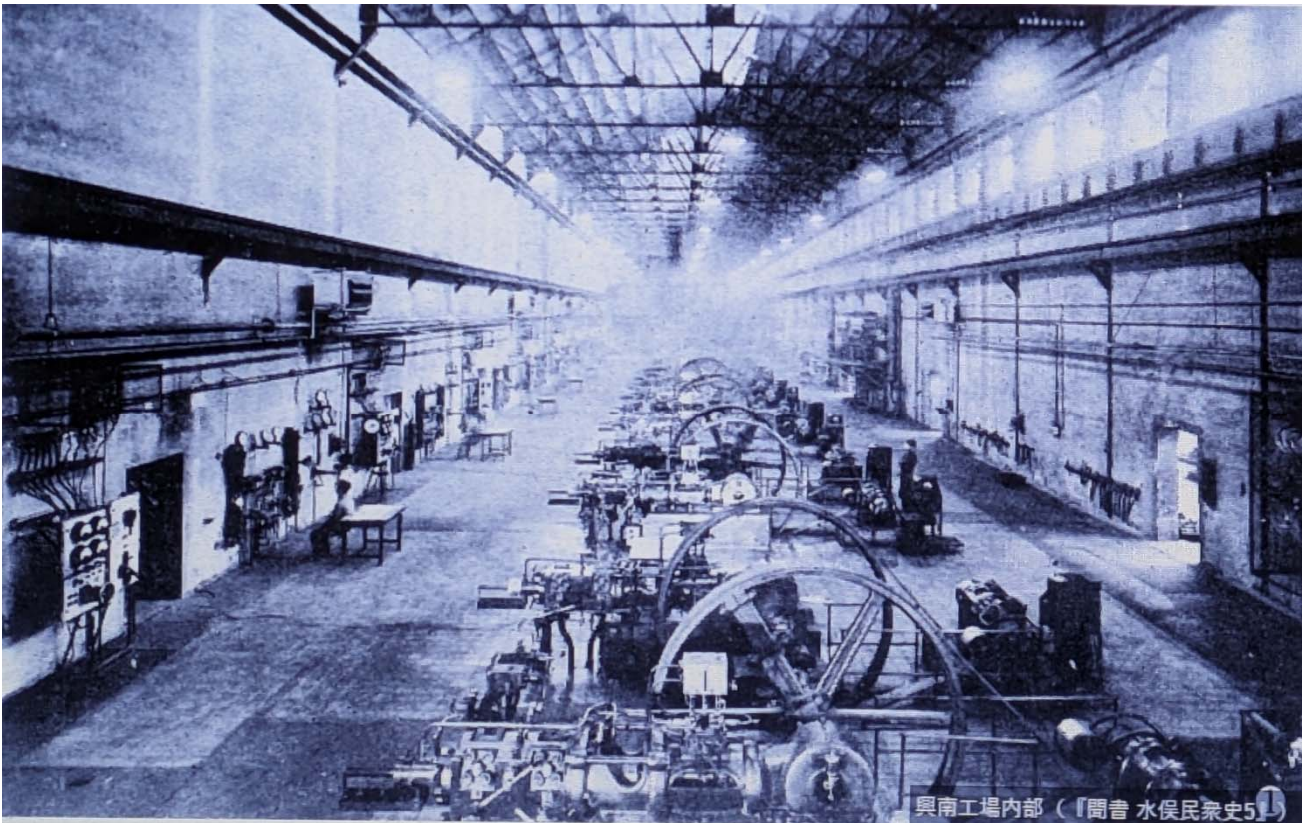
興南工場全景



工場の巨大煙突



工場内部



現在も使用されている社宅



現在も肥料等を製造している

